

滋賀県の下水道資源の有効利用等に関する調査研究

全体期間

2001.9～2003.3

(目的)

滋賀県下では、昭和46年に「琵琶湖周辺流域下水道基本計画」を策定して以来、現在まで、琵琶湖の水質保全および生活環境改善などを主目的として、4処理区からなる流域下水道事業やその他単独公共下水道事業、農村集落排水事業などの整備が実施されてきた。平成12年度末には下水道の人口普及率は64.5%を超え、平成22年には85%の普及率を目指し、積極的な事業推進が行われている。

一方、最近の社会意識の変化とともに下水道を含む水行政に対し、基盤整備事業へのより効果的な投資、循環型の社会づくり、良好な水循環の保全・創出、安全で安定的な水源確保等の対応が求められようとしている。このような状況のもと、下水道のマスタープランとして、滋賀県下の下水道のあり方を琵琶湖、県民、流域の視点から再検討するとともに、今後の下水道事業の主要なプロジェクトを総括し、このプロジェクトを推進するためのソフト的方策を言及する必要がある。

本業務では、このマスタープランの基本的な柱となると考えられる計画のうち、「資源有効利用計画」を中心に検討し、今後のマスタープラン作成に資するものである。

(結果)

(1) 汚泥処理総合計画

<今年度の業務内容>

- ・業種別処理形態別人口、下水道計画の概要を整理するとともに、有効利用状況について整理した。
- ・「滋賀県下水道整備計画 平成12年3月」を用いて事業別に発生汚泥量の予測を行った。
- ・汚泥有効利用技術の概要を整理し、利用目的別潜在需要を、ヒヤリング調査等を踏まえ把握した。
- ・下水処理場由来の地球温暖化ガス排出量を試算するとともに、地球温暖化防止に効果の期待できる汚泥有効利用方法に関する調査を行った。

<今後の予定>

- ・汚泥有効利用、地球温暖化防止を前提とした汚泥処理地域割りのシナリオ設定と評価指標の抽出。
- ・シナリオ分析および評価。
- ・下水汚泥処理総合計画の策定。

(2) 処理水再利用構想

<今年度の業務内容>

- ・処理水有効利用の整理
下水処理水が有する特性を整理し、滋賀県の地域特性を加味し処理水再利用の可能性をとりまとめた。また、全国的な処理水再利用の目的、処理方式、供給水量、供給水質、運用上の課題などを整理した。

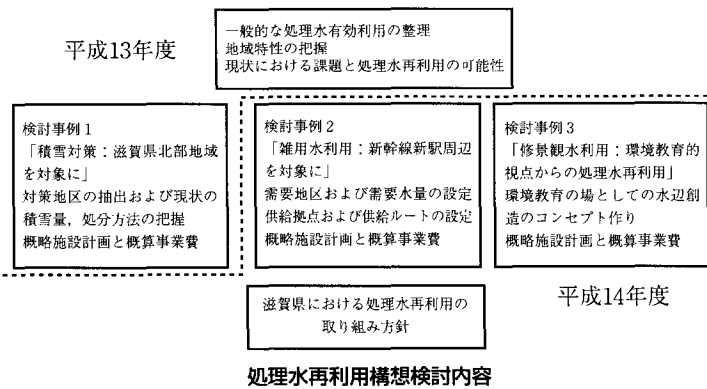
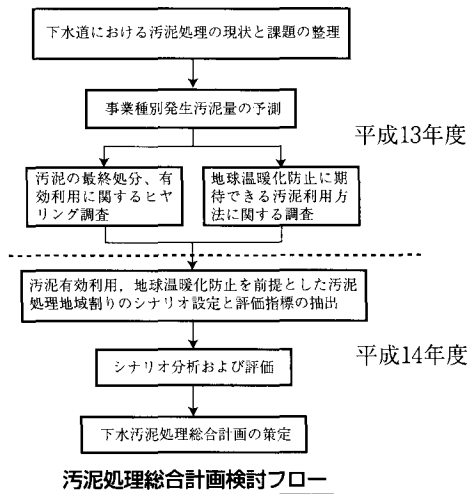
- ・事例検討：「積雪対策」
検討対象地区の抽出および対象地区の現状積雪量、処分方法の把握を行い、概略施設計画の策定および概算事業費を算出し、他代替案との比較検討を行った。

<今後の予定>

- ・事例検討：新幹線新駅周辺を対象とした「雑用水利用」、環境教育的視点からの処理水再利用「修景親水利用」
- ・滋賀県における処理水再利用の今後の取り組み方針

滋賀県からの受託研究

研究担当者：高相 恒人，篠岡 賢進，馬上 英機，城田 猛



キーワード

資源有効利用計画，汚泥有効利用，処理水再利用，下水汚泥処理総合計画